
2019年度執行
(2018年度国補正(第1回))
地方創生拠点整備交付金
活用事業の概要

2019年8月
北海道

歴史文化資源を活用した観光拠点整備事業

＜北海道開拓の村＞ 札幌市厚別区厚別町小野幌50-1（昭和58年）

KPI:開拓の村の入場者数
H29 130,913人 → H35 149,408人

明治・大正期の歴史的建造物を移設、復元、保存しながら、開拓当時の景観を再現し、北海道開拓の歴史（生活や産業、文化）を身近に体験・学習できる野外博物館であり、観光施設としても交流人口の拡大に貢献してきた。

施設の目的

茅葺き屋根や桁屋根、札幌軟石など様々な素材の建造物が揃っている開拓の村において、旧武井商店酒造部や旧三ます河本そば屋をリノベーションし、北海道の歴史や歴史的建造物を学び、体験出来る施設として整備するとともに、隣接する北海道博物館との相乗効果を高め、本施設の入場者数や入場料収入の増加を図る。

課題等

- 歴史的建造物の重度の老朽化による施設の一部未活用のための観光需要の喪失。
 - 歴史的建造物という地域資源の未活用のため、北海道開拓の歴史を身近に体験・学習できるはずの野外博物館としての魅力低減、入場者数の減低迷少が招く地域経済の低迷。
 - 北海道観光に関する訪日外国人旅行者意向調査（日本政策投資銀行）によると、北海道観光に期待する項目として、「エコツーリズムに参加（51%）」「有名な史跡や歴史的建築物の見学（43%）」等の知的欲求を満足させるような項目が高い。
- ⇒北海道の観光は、自然景観や食が主となっており、季節や地域に偏りがあることから、インバウンドを中心とした観光客のニーズの高い「文化」を観光資源として打ち出し、観光産業等の所得向上や地域経済の活性化につなげる。

収益見込み

○体験型メニュー参加料収入

⇒ 毎年の参加料収入 960千円

○本施設の入場者の増加に伴う入場料収入の増加

⇒ 40,317千円（H29） ⇒ 48,835千円（H35）

地域活性化との関係

○観光拠点施設の整備による観光・運輸事業者等の収益増

・H32年に白老町に「ウポポイ（民族共生象徴空間）」が開設。

⇒このチャンスを逃さずに外国人観光客500万人の誘客につなげる。

○歴史的建造物のリノベーションによる建設業者の収益増

北海道開拓の村
案内図

【旧三ます河本そば屋改修工事】

●体験・情報発信施設として改築

【旧武井商店酒造部改修工事】

●体験・日本酒の魅力発信施設として改築

